

【プレスリリース】

**アイルランド政府、食品・飲料品の輸出促進を目的に  
日本でトレードミッションを実施  
大阪万博「アイルランド・ナショナルデー」にも参加**



アイルランド政府は、6月11日(水)から14日(土)までの4日間、農業・食糧・海洋省マーティン・ヘイドン大臣の率いる政府貿易使節団によるトレードミッションを実施します。当ミッションは、アイルランド政府食糧庁 Bord Bia（ボード・ビア）が主催し、東京と大阪の2都市にわたり、日本政府関係者との会談や、アイリッシュビーフ、乳製品、飲料、シーフードのプロモーション活動、そして6月14日(土)には、大阪万博「アイルランド・ナショナルデー」への参加が予定されています。アイルランドは2024年、世界180か国以上に農産物および食品を輸出し、その輸出額は170億ユーロ（およそ2兆7,710億円）に達しました。アイルランドの農業・食品分野の持続的な成長を目指す業界主導の戦略「Food Vision 2030」は、2030年までにアイルランドから世界への農産・食品分野の輸出額を210億ユーロ（およそ3兆4,230億円）へと拡大する明確な目標を掲げています。今回の日本でのトレードミッションは、この戦略の一環として、重要な市場の一つである日本との関係強化を図る重要な機会です。

日本は、アイルランド政府による市場優先度調査において、アイルランド産食品・飲料の優先市場として特定されています。アイルランド政府食糧庁 Bord Bia（ボード・ビア）は、こうした戦略的な市場の重要性を踏まえ、2019年に東京事務所を開設しました。前回の日本へのトレードミッションは2022年に実施されており、2024年のアイルランドから日本への食品・飲料輸出額は、1億6,100万ユーロ（およそ262億4,300万円）に達しています。マーティン・ヘイドン大臣は次のように述べています。「日本はアイルランドの農産・食品分野において、引き続き重要な市場です。日本の消費者は、高品質な製品を求めており、品質やトレーサビリティに対する意識も年々高まっています。アイルランドでは、国家的食品サステナビリティプログラム「オリジングリーン」を通じて、品質、安全性、持続可能性の向上に取り組んでいます。今回の訪問は、アイルランドが誇る世界最高水準のプレミアム食品を日本のお客様にご紹介し、関係構築・強化を図ることを目的としています。また、日本政府関係者との対話を通じて、アイルランド産食品・飲料の品質、安全性、そして持続可能性について改めてアピールできることを楽しみにしています。日本との政府間関係を一層深めるとともに、乳製品・飲料・食肉など幅広い分野における商業的な機会の拡大を目指してまいります。」

またマーティン・ヘイドン大臣は、6月12日(木)に大阪万博を訪問し、欧州委員会の農業・食品担当委員 クリストフ・ハンセン氏と面会、さらにパネルディスカッション「持続可能で競争力のある農業：EUからの視点」に登壇予定です。このセッションでは、ヨーロッパにおける持続可能かつ革新的な農業について、また日本市場が求める要素や双方の農業・食品分野における今後の貿易、投資、協力の可能性についても議論されます。マーティン・ヘイドン大臣は、訪日中の4日間で、東京にて日本の農林水産省関係者と、また大阪にて日本中央競馬会（JRA）の関係者との会談を予定しています。日本市場の重要性を鑑み、アイルランド政府食糧庁 Bord Bia（ボード・ビア）CEO、ジム・オトゥールも同行し、アイルランドの乳製品、食肉、シーフード、飲料の輸出業界を代表して、大阪での各種プログラムにも参加します。今回のトレードミッションでは、アイルランド産の牛肉、乳製品、飲料、シーフードのプロモーションを目的とした一連のイベントや会合が行われます。主なハイライトは、以下の3点です。

- ・アジア初となる「Chefs' Irish Beef Club」の設立、および3名の日本人シェフの加盟発表
- ・アイルランド発のポテトチップスブランド「Keogh's(キョーズ)」の伊勢丹を含む都内6つの小売店での販売開始
- ・アイルランド産の牡蠣の5年ぶりの輸入再開

また、大阪万博のアイルランドパビリオンでは、アイルランド政府食糧庁 Bord Bia（ボード・ビア）が6月12日（木）に日本の関連業者およびメディア向けに、6社のアイルランドウイスキーブランドによるテイस्टングイベントを開催します。アイルランド政府食糧庁 Bord Bia（ボード・ビア）CEOのジム・オトゥールは、特にアイルランド飲料における日本市場の重要性を強調し「日本は、品質を重視し舌の肥えた消費者を持つ、世界的に重要なウイスキー市場であり、世界の飲料トレンドをリードしています。2024年、アイルランドから日本への飲料輸出は約1,100万ユーロ（およそ17億9,300万円）に達し、2020年比で35%増加しました。中でもアイリッシュウイスキーの輸出は、そのうち約50%を占め、過去4年間で163%という顕著な成長を遂げています。この訪問は、アイルランドが誇る世界水準のプレミアム食品というブランド価値を伝え、日本市場のお客様との関係をさらに強化し、より強固な関係構築を目的としています。」と述べています。

マーティン・ヘイドン大臣とジム・オトゥール CEO は、Bord Bia 主催の顧客向けセミナーにも登壇し、アイルランドの持続可能なフードシステムと食品安全をテーマに講演します。代表団は、日本政府関係者との会談を通じ、アイルランドと日本の貿易関係のさらなる強化を目指します。この2025年6月のアイルランド政府による訪日は、日本市場がアイルランドの農産・食品分野の輸出において、いかに重要な位置を占めているかを明確に示すものです。今後もボード・ビアおよびアイルランド政府は、日本との関係をさらに強化し、品質、安全性、持続可能性を備えたアイルランド産食品の魅力の世界に発信していきます。

#### 【農業・食糧・海洋省 マーティン・ヘイドン大臣】



2025年1月に農業・食糧・海洋大臣（Minister for Agriculture, Food, Fisheries and the Marine）に就任。それ以前は、2020年7月より同省において、研究開発、農場の安全、新市場開拓を担当する国務大臣（Minister of State）を務め、農業政策の推進において中心的な役割を果たしました。

### 【アイルランド政府食糧庁 Bord Bia（ボード・ビア）について】

ボード・ビアは、アイルランドの食品・飲料・園芸の分野において国内外での販売促進を担う政府機関です。生産者の成長と持続可能性に寄与することを目指しています。日本では主に、牛肉、羊肉、豚肉、乳製品、水産物、ウイスキーなどの輸出製品があり、そのビジネス支援をしています。

公式サイト：<https://irishfood.jp/>

### 【オリジングリーンについて】



食品の持続可能性の実現および保全に対するアイルランドの取り組みは、すでに世界中に知られています。国家的食品サステナビリティプログラム「オリジングリーン」を通じて、第三者による測定・監査を実施することで、世界最高水準の食の安全性と持続可能性の向上に取り組み、食品の長期安定供給を保証しています。さらにアイルランドは、持続可能な牛肉・ラム肉保証（SBLAS）制

度を通じて、アイルランドの肉牛農場を対象に、動物の健康・福祉、食品安全、土地の管理、バイオセキュリティ、など様々な面で安全な畜産の要件を定めています。その達成状況を各農場レベルで、記録・モニタリングすることで、継続的改善を図っています。また、近年、電子識別（EID）が導入されたことにより、消費者にとってより信頼性の高いトレーサビリティシステムが実現しました。

### 【メディアからのお問い合わせ（PR 事務局）】

キャンドルウィック株式会社 担当：山岸、大石

E-mail：bordbia@candlewick.co.jp

TEL：03-6261-6050 〒102-0082 東京都千代田区一番町 2 パークサイドハウス 7F